

* 子ども防災博士意見発表の部 *

最優秀賞 「備えへの第一歩」

岩出小学校 六年 上谷 理さん



突然ですが、みなさん深夜に一人でトイレに行けますか？僕は家族を起こしたくないので部屋の照明をつけずに、あらかじめ置いてある懐中電灯を持ってトイレに行きます。そんなに大きくはない懐中電灯なんですけど、これがものすごく心強いんです。もしこれがなかったらと考えると、残念ながら家族を起こすという選択肢以外僕には思いつきません。

僕に限らず、人は誰も『暗闇』への恐怖心を持っていると思います。だからこそ真っ暗であるという状況を何とかしようと人間は火や電気を利用し、道具を作り、克服しようとしてきました。家が明るいのは当たり前であり、道を歩けば街灯があり、僕の手には懐中電灯があります。そんな当然のようにある状況がある時突然なくなるとすれば、僕たちはどうすればよいのでしょうか。電気が使えない状態、つまり停電という状況について、みなさんと考えてみたいと思います。

僕たちが住んでいるこの日本では地震や台風の発生に伴って過去何度も長時間の停電ということが起こってきました。令和元年の台風十五号の際には約十二日間停電が続いていたそうです。いつ発生するかわからない災害に対して発生してからできることというのは残念ながら限られています。ですから災害が起こる前にしておく『備え』というものがとても重要になると思います。

僕が考える停電への備え、その一つ目は、『食糧の確保』です。IHヒーターや炊飯器・レンジなど、現代の食生活は電気の利用とは切り離せないものとなっています。食材を入れておく冷蔵庫も停電になれば二時間しか冷気が保たれません。季節にもよりますが、停電状態では多くの生鮮食品は長時間保存することができません。救助や復旧に向けた初動対応を考えた時、三日分の備えということが大きなポイントになるといいます。電気の有無に関わらず災害時に活用できる食品を用意しておくという重要性をぜひみなさんに今回伝えたいと思います。僕の家でも缶詰や即席麺など電気を使用しなくても食べられる食品を準備し、『その時』に備えています。

続いて僕が考える停電への備え、二つ目は『周囲の安全確保』です。先ほど言いましたが照明があることに慣れている僕たちは暗闇への対応がどうしても遅れてしまいます。例えば地震と停電が同時に起こると足下にガラスの破片などが散乱する可能性があります。周りが見えない状況でむやみに動くと大きなケガにつながるかもしれません。こんな時備えとして懐中電灯とスリッパが一部屋に一セットあれば安心ではないでしょうか。

最後の三つ目は、『電源の確保』です。災害が起きた時、安全を確保すると同時に重要になってくるのは、情報の収集ではないでしょうか。どこが安全か、どこに避難するか、家族は無事なのか、そんな多くの情報は、スマートフォンがあれば入手することができることが多いと思います。しかし時として懐中電灯にもなるこのスマートフォンは充電という手段がないと長時間の使用が難しいという問題があります。最低三日間使用できる分のモバイルバッテリーなどがあれば、できる手段がぐんと増えると僕は考えます。

このように、停電への備えという点で考えた時、様々な方法があることが分かります。しかし、それら全てを一度に準備することは難しいです。家庭それぞれの事情もありますし、優先される順位も違います。けれども、『何もしない』と『何か備えがある』では災害時、僕たちが考える以上に大きな違いがあると思います。

災害は必ず起こります。それは避けようがありません。ですが、僕たちはそれを予見し備える力があります。『できることをできるだけ』『少しずつ、けれど確実に。』そのような意識を今日、みなさんに持ってもらえたらうれしいです。

最初の一步。まずは部屋に一つ懐中電灯を置いてみませんか。突然の災害時に役立つと同時に、安心してトイレに行ける『心強い存在』になると思いますよ。